



CONTENTS

- 活動報告・各種会議議事録
- 日本農薬学会第49回大会（奈良）報告
- 会員動静
- 学会関連カレンダー
- 「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ 改訂4版2018」のご案内
- 「農薬について知ろう」ウェブサイトのご案内
- 講師派遣のご案内
- 【予告】農薬科学研究奨励金のご案内
- 令和7・8年度日本農薬学会役員選挙について

令和5年度 第5回常任評議員会議事録

日 時：2024年2月3日(土) 13:00～17:00

開催方法：対面とオンラインのハイブリッド開催

出席者：15名（第49回大会組織委員長を含む）

欠席者：1名

議事

- 2023（令和5）年度第4回常任評議員会議事録を確認した（メール審議にて確認済み）。
- 経過報告および議案
 - 第49回大会（奈良）について
 - 2024年3月14日～16日に開催予定の第49回大会について、準備状況が大会組織委員長から報告された。
 - 作成中のプログラムおよび大会会場についての説明があった。
 - 財務関係
 - 2023年度の収支決算書について、予算額と決算額の説明があった。
 - 2024年度予算案についての説明があった。
 - 能登半島地震被災者支援として、第49回大会参加費の返還および2024年度・2025年度の学会費免除を行うことが提案され、承認された。
 - 編集委員会
 - JPSへの投稿審査状況、およびIFの推移について説明

があった。

- JPSおよび和文誌に対する、各国からのアクセス状況についての説明があった。
 - 和文誌における50周年記念誌についての相談会を実施したとの報告があった。50周年記念誌は和雑誌50巻1号と2号に盛り込むこと、執筆候補者への打診を進めていることについて説明があった。
- 終身会員の推薦について
 - 4名の会員を終身会員へ推薦することが説明された。
 - 法人化および50周年関係
 - 一般社団法人を目指していることについて、改めて説明があった。
 - 今後の課題として、以下の点について説明があった。
 - ✓代議員の数と選出方法
 - ✓選挙の2段階制導入
 - ✓学術小集会の規定
 - ✓任意団体から一般社団法人への移行の際の収支決算
 - ✓会則・細則・規定の大幅な見直し
 - ✓会議の電子化（オンラインおよびメール会議の活用）
 - 2025年度からの法人化を目指す場合の、今後のスケジュールについて説明があった。
 - 本年3月の評議員会および総会にて、一般社団法人への移行について承認され次第、詳細なスケジュールを立てて進めることが確認された。
 - 日本農薬学会50周年記念事業に関して、記念大会組織委員会、記念出版、および和文誌記念記事についての説明があった。
 - 将来計画委員会
 - 今後の活動の概要について説明があった。
 - 学術・技術支援委員会
 - 講師派遣に関する案内文の改訂を検討しているとの説明があった。
 - 残留農薬分析セミナーを2023年12月16日に開催したとの報告があった。
 - Q&Aのweb版については大幅な改変を行わないこと、「農薬について知ろう」webページについてはスマートフォン閲覧対応を検討しているとの説明があった。

8. 農薬科学研究奨励金について
 - ・一次審査の概要説明の後に、常任評議員による二次審査を実施し、2件の申請課題の採択を承認した。
 - ・農薬科学研究奨励金の審査員の選定方法についての内規を改定することが提案された。
9. 技術士育成推進委員会
 - ・関連各学会における技術士セミナーの実施状況について説明があった。
 - ・日本農薬学会では今年度の技術士セミナー開催予定はなく、来年度開催予定であるとの説明があった。
10. 日本昆虫科学連合、日本植物保護科学連合
 - ・日本学術会議の分科会の6年ごとの見直しにおいて、植物保護学と応用昆虫学の分科会が認められたとの報告があった。
11. 公益財団法人農学会、一般社団法人日本農学会
 - ・一般社団法人日本農学会の総会および日本農学会賞の選考会が開催予定との説明があった。
12. 入会・退会の報告
 - ・2023年12月1日～2024年1月31日の期間における入退会の報告があり、正会員14名、および学生会員16名の入会が承認された。
13. その他
 - ・総会資料の作成について説明があり、各記事の担当者を確認した。また、役員リストのお名前とご所属の確認が必要であることを確認した。

令和5年度 第6回常任評議員会議事録

日 時：2024年3月13日(水) 13:30～14:50

開催場所：ホテル日航奈良

出席者：15名（第49回大会組織委員長を含む）

欠席者：1名

議事

- I. 2023（令和5）年度第5回常任評議員会議事録を確認した（メール審議にて確認済み）。
- II. 経過報告および議案
 1. 第49回大会（奈良）について
 - ・第49回大会の準備状況について、大会組織委員長および松田会長から報告があった。
 2. 財務関係
 - ・2024年（令和6年）1月1日から2月28日までの収支予算管理報告があり、順調に推移していると説明があった。
 - ・2023年（令和5年）1月1日から12月31日までの収支計算書および貸借対照表について、総会資料に基づいて説明があった。
 - ・2024（令和6年）度の収支予算（案）について説明が

あった。

3. 編集委員会
 - ・JPSへの投稿審査状況、およびIFの推移について説明があった。
 - ・和文誌の原稿依頼および入稿状況の説明があった。
4. 法人化および50周年関係
 - ・評議員会と総会で提案予定の一般社団法人化に関して、総会資料に基づき、與語副会長より説明があった。
 - ・今後のスケジュール（案）：
2024年 3月 第49回大会・総会にて法人化の提案
10月 （任意団体農薬学会の）役員選挙
12月 新法人の定款等の会員への意見聴取
2025年 1月 新法人の定款承認
2月 新法人の設立登記
3月 第50回大会・総会にて新法人への移行・活動開始、任意団体の解散決議
5. 技術士育成推進委員会
 - ・2023（令和5）年度5学会技術士育成推進委員会の報告があった。
 - ・2022（令和4）年度技術士第二次試験（農業部門・植物保護）の合格者が8名であったとの説明があった。
6. 日本昆虫科学連合、日本植物保護科学連合
 - ・渡航費補助に関して、申請数が多く予算が不足しそうな場合等の対応について議論した。
 - ・第50回大会で実施する特別講演会を日本学術会議と共催にする予定との説明があった。
7. 公益財団法人農学会、一般社団法人日本農学会
 - ・一般社団法人日本農学会の2024年度日本農学会賞の受賞者7名が決定したとの報告があった。
8. 入会・退会の報告
 - ・2024年2月1日～2月29日の期間における入退会の報告があり、正会員4名、および学生会員1名の入会が承認された。
9. その他
 - ・ニュースレターの公開方法に関して、バックナンバーについては一定期間の経過後にパスワードを外して自由に閲覧できるようにすることが提案された。
 - ・評議員会と総会にて説明予定の事業計画について松田会長より説明があった。

日本農薬学会第50回評議員会 議事録

日時：2024年3月13日(水) 16:30～18:00

開催場所：ホテル日航奈良

出席者：松田会長、與語副会長、飯島副会長、元場副会長、三富監事、評議員47名、委任状33通、顧問2名、第49回大会組織委員長

評議員会成立の確認

出席並びに委任状を提出した評議員（80名）が定足数（35名、評議員総数102名および会長副会長4名の1/3以上）に達していることを確認したのちに、会則第29条に則り松田会長を議長として議事を進行した。

議事

1. 令和5年度会務報告

第49回通常総会資料に基づき、総務・編集・渉外・賞選考の各項目について委員長または担当常任評議員が報告を行い、質疑を受けたのち、承認された。

2. 令和5年度会計報告決算報告ならびに会計監査報告

第49回通常総会資料に基づき、収支決算について元場副会長が報告を行った。

続いて三富監事から、学会並びに学術小集会の活動が適正であり、収支決算の内容が的確であったとの業務・会計監査結果が報告された。

以上の報告について質疑を受けたのち、承認された。

3. 令和6年度事業計画案ならびに収支予算案

事業計画案について松田会長が説明を行った。
能登半島地震への対応について、松田会長より説明があった。

日本農薬学会（任意団体）の一般社団法人化に関して、與語副会長より説明があった。

収支予算案について元場副会長が説明を行った。

以上について質疑を受けたのち、承認された。

4. 終身会員の承認

終身会員として丸 諭氏、濱口 洋氏、石井 英夫 氏、田中 啓司 氏が推薦され、承認された。

5. 第50回大会について

第50回大会を令和7年3月に東京大学及び北里大学において開催することが承認された。滝川次期大会委員長から挨拶があった。

6. その他

会員数が以前より減っていることについて指摘があった。松田会長から、会員数の増加を目指して様々な方策を検討しているとの説明があった。

が報告を行った。次いで、収支決算について財務担当者が報告を行った。その後、斎藤監事から、学会並びに学術小集会の活動が適正であり、収支決算の内容が的確であったとの業務・会計監査結果が報告された。以上について質疑を行い、承認された。

2. 終身会員の推薦

第50回評議員会において終身会員4名が承認された旨報告があった。

3. 令和6年度事業計画案及び収支予算案

事業計画案について松田会長が説明を行った。
能登半島地震への対応について、松田会長より説明があった。

日本農薬学会（任意団体）の一般社団法人化に関して、與語副会長より説明があった。

収支予算案について元場副会長より説明が行われた。

以上について質疑を行い、承認された。

4. 第50回大会

第50回大会を2025年3月に東京大学及び北里大学において開催することが、第50回評議員会で承認されたとの報告があった。

次回大会組織委員長である東京大学の滝川氏より挨拶があった。

5. その他

以下のような質疑応答・提案があった。

- ・7つの学術小集会への参加者数がとても多く、その中には非会員も含まれているため、会員になっていただく良い機会なのではないかという指摘があった。学術小集会の講演会やシンポジウムにて入会案内を行い、学会に入ることのメリットを説明するなどの活動を今後も地道に続けたいと松田会長より説明があった。
- ・寄附の状況について問い合わせがあり、今年に入って1件の寄附をいただいたとの報告があった。
- ・法人化された後の日本植物防疫協会と日本農薬学会との関係について質問があり、日本応用動物昆虫学会など他学会の状況を参考にして検討したいとの説明があった。
- ・アウトリーチ活動にかかる費用や渡航費補助などについてより明確に予算案に計上してはどうかという意見があった。
- ・法人化に関して、今後の作業を短期集中で実施してはどうかという提案があり、分担して効率よく進めたいという説明があった。
- ・65歳以上の会員の会費割引制度や終身会員の会費が無料になること等、日本農薬学会に入会することの利点を非会員にも周知してはどうかという意見があった。

日本農薬学会第49回通常総会 議事録

日時：2024年3月14日(木) 10:00～11:20

開催場所：なら100年会館（奈良県奈良市）

会則第24条に則り、松田会長を議長として議事を進行した。
議事：

1. 令和5年度会務報告及び決算報告

総務・編集・渉外・賞選考の各項目について各担当者

資料

I 会務報告

1. 総務関係報告

1) 会員異動（令和5.1.1～令和5.12.31）

	令和4年 12月31日 現在	令和5年12月31日現在			増 減 (△減)
		国 内	国 外	計	
名誉会員	20	22	1	23	3
終身会員	59	62	0	62	3
正会員	833	816	9	825	△8 ^a
学生会員	37	62	1	63	26 ^b
維持会員 (口数)	35 (69口)	34 (68口)	0	34 (68口)	△1 (△1口)
団体会員	69	68	0	68	△1
購読会員	14	4	8	12	△2

^a入会者：47名，退会者：22名，会費未納者：33名

^b入会者：31名，退会者：3名，会費未納者：2名

2) 会誌の発行

発行および頒布部数（令和5.1.1～令和5.12.31）

誌 - 巻 - 号	農薬誌-48-1	農薬誌-48-2
発行部数	1240	1200
会員頒布	1091	1091
一般購読	14	14
寄 贈	23	23
広告・PR	10	10
事務用	2	2
保存用	5	5
計	1145	1145
残存部数	95	55

3) 日本農薬学会第48回大会

- 第48回大会（R5.3.8～R5.3.10）：第48回大会は対面形式で東京農業大学を大会運営本部として開催された。
- 第48回通常総会（R5.3.8）：東京農業大学を本部とする対面形式で開催され，令和4年度会務報告，会計報告，会計監査報告，第49回評議員会における名誉・終身会員の承認と日本農薬学会大会第49回大会（令和6年，近畿大学）の開催の承認の報告が行われ，令和4年度事業報告および決算，令和5年度事業計画および収支予算（案）が承認された。

4) 役員会の開催

- 第50回評議員会（R6.3.13），令和5年度会務報告，会計報告が行われ，令和6年度事業計画および収支予算（案）が承認された。終身会員が承認された。日本農

薬学会大会第50回大会（令和7年，東京大学・北里大学）の開催が承認された。

- 常任評議員会：6回（R5.5.13, 8.9, 9.9, 12.9, R6.2.3はハイブリッド，R6.3.13は対面）開催。

5) 専門委員会など

- 第50回編集委員会：R6.3.13に開催。学会誌への投稿状況，JPSのインパクトファクターの推移を報告。
- 常任編集委員会：3回（R5.3.25対面，R5.6.5オンライン，R5.8.5対面）で開催。和文誌，英文誌の掲載内容，著者責任による英文校正の推奨，論文賞の推薦，副編集委員長の設置。JPSレビューの掲載本数の増加策，和文誌50周年記念寄稿依頼に関する相談。
- 学会賞受賞者選考委員会：R5.5.20にオンラインで開催し，内規や今後の予定について検討。R5.9.23にオンラインで開催し，R5.9.23に日本農薬学会賞を選出するとともに，日本農学賞の候補を承認。外部の各賞について一斉メールで情報発信し，農学進歩賞の候補を選出。
- 財務委員会
 - R5.4.24, 5.9, 5.31, 7.20, R6.1.12にメール会議を開催。
 - 令和5年度予算進捗の確認，令和4年度決算・令和5年度予算の検討と提案。
 - 学術小集会活動経費補助申請の検討。
 - 学会の継続的適正運営に関わる経費面のシミュレーションの実施。
 - 外部監査（R5.2.1）の実施に対応。
- 第49回大会組織委員会：R5.5.20, 9.26, R6.1.27, 2.10, 2.22に開催。
- 将来計画委員会：R5.7.18にオンラインで実施。日本農薬学会の改革に向けた答申（2022.7.1）に関するその後の取組みと課題について検討。農薬科学の裾野の拡大，会員の拡大，若手研究者の育成，イメージの払拭について検討。
- 学術・技術支援委員会：3回（R5.7.5, 9.1, 11.30）にオンライン開催（一部ハイブリッド）。メール会議数回。「農薬について知ろう」Webサイトの運営・保守管理・広報・バナー広告掲出，残留農薬分析セミナー，講師派遣事業，学会ホームページ運営，「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ」改訂等の活動について検討。
- 農薬科学研究奨励金交付者審査会議：一次審査（R5.12.9～R6.1.20メール会議），二次審査（R6.2.3）。
- 学術小集会委員長と常任評議員との意見交換：R5.9.9に開催。活動報告・予定，各委員会の取り組み等について意見交換。
- 三学会長懇談会：R5.10.31に開催。R6年度の（一社）日本植物防疫協会への業務委託契約の確認と，

各学会の大会の開催の時期と方法について報告。日本農学賞候補者の推薦方法、会員増に向けた取り組み、及び将来的な年次大会の開催場所・開催期間の統一について意見交換。

6) 技術士育成推進委員会（5学会）

令和4年度技術士二次試験（農業部門・植物保護）の合格者は8名であり、合格者総数が161名になったとの報告があった。

2. 編集関係報告

1) 「日本農薬学会誌」掲載原稿数および頁数

巻 号	掲 載 原 稿 数									計	頁 数
	総説	解説	受賞論文	技術資料	ミニレビュー	シンポジア	読み物シリーズ	ショートレビュー	その他		
48-1	1	2	0	0	0	8	1	3	3 ^a	18	85 (+19)
48-2	0	1	3	1	11	0	1	2	4 ^b	23	201 (+18)
合 計	1	3	3	1	11	8	2	5	7	41	286 (+37)

a: 書評1編、追悼1編、大会プログラムを掲載（19頁）

b: 書評1編、追悼2編、会則等を掲載（18頁）

2) 「Journal of Pesticide Science」掲載原稿数および頁数

巻 号	掲 載 原 稿 数							計	頁 数
	総説	報文	短報	技術資料	受賞論文	その他			
48-1	1	1	2	0	0	0		4	27
48-2	0	4	2	0	0	0		6	42
48-3	0	5	2	0	0	0		7	45
48-4	0	11	0	1	0	3 ^a		15	117 (+8) ^a
合 計	1	21	6	1	0	3		32	231 (+8)

a: Contents of Volume, Keyword Index, Author Index.

3) 論文賞

候補1件を、学会賞受賞者選考委員会に推薦した。

4) その他

- 2023年6月より、常任編集委員会に副編集委員長ポストを新設。
- 受付論文数（2023年）：和文1編、英文78編（掲載否32編）。
- 学会誌（JPS）インパクトファクター（2022年）：2.4（2021年：2.529）。
- 電子ジャーナル掲載論文へのアクセス状況（2023年）：月平均約9415件のダウンロード、被引用件数1915/年。（2022年：9124件、被引用件数：1837/年）
- 国・地域別アクセス件数（2023年）：JPS：米国101,424、日本76,657、中国64,568、ドイツ15,186、インド13,521、カナダ10,166、ロシア7,585、シンガポール7,098、大韓民国6,984。英国5,499。農薬誌：日本76,982、米国23,734、中国7,263、カナダ3,687、ドイツ2,475。

3. 渉外・企画関係報告

1) セミナーの開催

- 残留農薬分析セミナー：日本植物防疫協会・会議室にて対面形式で開催した。（R5.12.16）

2) 農業科学研究奨励金

農業科学研究に対する研究奨励金（50万円）を令和5年度は以下の2件の研究に対して交付した。

- 吉永 直子 氏（京都大）：(No. 202301) サポナイトによる産卵抑制メカニズムの解明
- 浅野 美和 氏（農研機構）：(No. 202302) 薬剤抵抗性発達に関わる解毒分解酵素の網羅的探索と機能解析

3) 学術小集会

- 農薬残留分析研究会（第46回）：長野アクティーホール（長野県長野市）にて、「農薬残留分析に係る最新の話題」をテーマとして招待講演4題、特別講演1題、ポスター発表19題、話題提供セミナー「難分析セミナー」および「不測の事態への対応事例の情報共有」が行われた。参加者は181名であった。（R5.11.13～14）
- 農薬製剤・施用法研究会（第42回）：なら100年会館

(奈良県奈良市)にて、4年ぶりの対面開催で海外からの参加者も含めて231名が集まった。1日目は特別講演3題とポスターセッション6題が、2日目は技術研究発表8題が行われ、両日とも講演会場には参加者が溢れ大盛況であった。(R5.9.28~29)

- 3) 農業環境科学研究会(第40回):「グローバルにアプローチするグリーンテクノロジー」をテーマに、特別講演1題、基調講演・講演5題、ポスター発表7題の発表をハイブリッド開催(ホテルマイステイズ松山(愛媛県松山市))で行った。参加者は55名であった。(R5.9.14~15)
- 4) 農業生物活性研究会:第40回農業生物活性研究会シンポジウムをオンラインで開催した。参加者は約80名であった。(R5.4.21)
- 5) 農業デザイン研究会(第37回):ホテルマイステイズ新大阪コンファレンスセンター(大阪府大阪市)にて4年ぶりにオンサイトで開催。テーマ「農業デザインのイノベーション」にて招待講演4題、ポスター発表25題(優秀ポスター賞3題)、協賛企業展示8社を集め、参加者は過去最多の160名を数えた。(R5.11.22)
- 6) 農業レギュラトリーサイエンス研究会(第30回):北とびあ(東京都北区)にて対面開催。「日米欧における最近の農業行政・規制の動向について考える」をテーマとして4題の講演が行われた。参加者は121名であった。(R5.12.18)
- 7) 農業バイオサイエンス研究会(第23回):東京農業大学・世田谷キャンパス(東京都世田谷区)において、第48回大会との共催で「生命科学の新技术に学び、活かす」をテーマとして5題の講演が対面で行われた。参加者は約300名であった。(R5.3.9)。(第24回):東京農工大学・府中キャンパス(東京都府中市)において、「昆虫フェロモン研究の最前線」というテーマで4題の講演が対面で行われた。参加者は約60名であった。(R5.11.17)

4) 学術小集会以外の研究会等

- 1) 2023年度日本農学会シンポジウム:東京大学弥生講堂とオンラインのハイブリッド開催。(R5.10.7)

5) 国際会議等派遣研究者への渡航費補助(交付決定額)

- 1) 草島 美幸, International Society of Plant-microbe interaction Congress, 2023年7月16~20日, 米国・プロビデンス, 300,000円
- 2) 藤田 萌香, International Society of Plant-microbe interaction Congress, 2023年7月16~20日, 米国・プロビデンス, 300,000円
- 3) 住井 裕司, 23rd International Symposium on Fluorine Chemistry (23rd ISFC), 2023年7月23~28日, カナダ・ケベック, 300,000円

- 4) 森澄 海人, Control of Human Disease Vector. Parasites & Pests, 2023年9月18~21日, イギリス・ケンブリッジ, 300,000円

- 5) 千歳 菜摘, Dioxine 2023, 2023年9月10~23日, オランダ・マーストリヒト, 300,000円

6) その他

4. 日本農薬学会賞受賞者選考委員会報告

1) 業績賞(研究, 技術), 奨励賞

会員より推薦された業績賞(研究)1課題, 業績賞(技術)1課題, 奨励賞1課題について慎重公正なる選考を行った結果, 次の3課題を各賞の候補と決定した。

【業績賞(研究)】

山内 聡氏(愛媛大学)

「農業開発を目指したリグナン類の合成および構造活性相関に関する研究」

【業績賞(技術)】

堀越 亮氏¹, 後藤 公彦 氏¹, 三富 正明 氏², 砂塚 敏明 氏³, 大村 智氏³

(1: 三井化学クロップ&ライフソリューション, 2:

Meiji Seika ファルマ, 3: 北里大学)

「殺虫剤「アフィドピロペン」の開発」

【奨励賞】

横井 大洋 氏(相模中央化学研究所)

「昆虫ホルモン様活性化化合物の合成・評価・デザインに関する研究」

2) 論文賞

編集委員会より推薦された論文について慎重公正なる審査を行い, 候補を決定した。

“The target site of the novel fungicide quinofumelin, *Pyricularia oryzae* class II dihydroorotate dehydrogenase”
Norikazu Higashimura, Akira Hamada, Toshiaki Ohara, Seiya Sakurai, Hirofumi Ito, Shinichi Banba
Journal of Pesticide Science Vol. 47, No. 4, 190–196, 2022

5. 令和5年度日本農薬学会奨励賞, 業績賞, 論文賞の決定
学会賞受賞者選考委員会で選考された日本農薬学会奨励賞, 業績賞, 論文賞各候補について, 評議員の投票により授賞が決定した。

6. 終身会員の承認

会則第7条2項により, 丸論 氏, 濱口洋 氏, 石井英夫 氏, 田中啓司 氏を終身会員に推薦し, 評議員会において承認された。

7. その他

II 会計報告

収支計算書

令和5年1月1日から令和5年12月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会費収入	15,714,000	16,259,000	△ 545,000
正会員会費収入	8,080,000	8,722,000	△ 642,000
学生会員会費収入	68,000	130,000	△ 62,000
海外会員会費収入	50,000	47,000	3,000
団体会員会費収入	504,000	476,000	28,000
購読会員会費収入	112,000	84,000	28,000
維持会員会費収入	6,900,000	6,800,000	100,000
会報刊行収入	860,000	592,500	267,500
頒布収入	30,000	19,000	11,000
広告料収入	30,000	30,000	0
著者負担金収入	800,000	543,500	256,500
事業収入	18,960,000	18,235,503	724,497
大会運営収入	5,540,000	6,770,000	△ 1,230,000
学術小集会運営収入	12,920,000	11,142,503	1,777,497
学術・技術支援委員会収入	500,000	323,000	177,000
雑収入	111,000	658,481	△ 547,481
預金利息収入	1,000	1,477	△ 477
雑収入	110,000	657,004	△ 547,004
事業活動収入計	35,645,000	35,745,484	△ 100,484
2. 事業活動支出			
会報刊行費支出	6,170,000	6,284,227	△ 114,227
旅費交通費支出	250,000	222,500	27,500
通信運搬費支出	10,000	0	10,000
消耗品費支出	10,000	0	10,000
印刷製本費支出	3,900,000	4,748,353	△ 848,353
編集費支出	1,500,000	1,040,000	460,000
学会誌送料支出	500,000	273,374	226,626
総会・大会費支出	5,540,000	5,774,696	△ 234,696
学術・技術支援	1,500,000	264,321	1,235,679
学術小集会費支出	13,138,000	9,408,920	3,729,080
HP管理費支出	900,000	881,720	18,280
学会賞関係費支出	205,000	152,299	52,701
学術交流費支出	256,200	201,950	54,250
国際学術交流費支出	1,000,000	1,470,300	△ 470,300
農業科学研究奨励金支出	1,000,000	1,000,000	0
男女共同参画支援費	150,000	0	150,000
事業運営費支出	1,500,000	648,515	851,485
会議費支出	700,000	123,603	576,397
旅費交通費支出	800,000	524,912	275,088
管理費支出	4,200,000	3,852,535	347,465
通信運搬費支出	250,000	147,128	102,872
消耗品費支出	150,000	7,949	142,051
事務管理費支出	3,190,000	3,190,000	0
印刷費支出	50,000	0	50,000
外部監査管理費	160,000	154,274	5,726
雑支出	400,000	353,184	46,816
事業活動支出計	35,559,200	29,939,483	5,619,717
事業活動収支差額	85,800	5,806,001	△ 5,720,201
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
特定資産取得支出	13,000,000	13,000,000	0
50周年記念事業基金取崩支出	13,000,000	13,000,000	0
投資活動支出計	13,000,000	13,000,000	0
投資活動収支差額	△ 13,000,000	△ 13,000,000	0
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出			
当期収支差額	△ 12,914,200	△ 7,193,999	△ 5,720,201
前期繰越収支差額	14,425,856	14,175,856	250,000
次期繰越収支差額	1,511,656	6,981,857	△ 5,470,201

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲について

資金の範囲には、現金預金、未集金、仮払金、未払金、前受金、預り金及び仮受金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産および負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金・預金	18,584,176	11,021,775
未 収 金	1,019,669	123,645
仮 払 金	500	906,717
合 計	19,604,345	12,052,137
未 払 金	149,600	99,150
前 受 金	4,980,000	4,545,500
預 り 金	5,889	15,630
仮 受 金	293,000	410,000
合 計	5,428,489	5,070,280
次期繰越収支差額	14,175,856	6,981,857

貸借対照表
令和5年12月31日

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	11,021,775	18,584,176	△ 7,562,401
未収金	123,645	1,019,669	△ 896,024
仮払金	906,717	500	906,217
流動資産合計	12,052,137	19,604,345	△ 7,552,208
2. 固定資産			
(2) 特定資産			
積立調整基金	12,224,379	12,224,379	0
国際学術交流基金	14,385,042	14,385,042	0
寄付基金	7,514,117	7,514,117	0
50周年記念事業基金	13,000,000	0	13,000,000
特定資産合計	47,123,538	34,123,538	13,000,000
(3) その他固定資産			
ソフトウェア	520,117	769,817	△ 249,700
その他固定資産合計	520,117	769,817	△ 249,700
固定資産合計	47,643,655	34,893,355	12,750,300
資産合計	59,695,792	54,497,700	5,198,092
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	99,150	149,600	△ 50,450
前受金	4,545,500	4,980,000	△ 434,500
預り金	15,630	5,889	9,741
仮受金	410,000	293,000	117,000
流動負債合計	5,070,280	5,428,489	△ 358,209
負債合計	5,070,280	5,428,489	△ 358,209
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
正味財産合計	54,625,512	49,069,211	5,556,301
負債及び正味財産合計	59,695,792	54,497,700	5,198,092

正味財産増減計算書

令和5年1月1日から令和5年12月31日

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	16,259,000	16,080,000	179,000
正会員会費	8,722,000	8,474,000	248,000
学生会員会費	130,000	76,000	54,000
海外会員会費	47,000	55,000	△ 8,000
団体会員会費	476,000	483,000	△ 7,000
講読会員会費	84,000	92,000	△ 8,000
維持会員会費	6,800,000	6,900,000	△ 100,000
会報刊行収益	592,500	589,100	3,400
頒布収益	19,000	33,500	△ 14,500
広告料収益	30,000	30,000	0
著者負担金益	543,500	525,600	17,900
事業収益	18,235,503	10,897,248	7,338,255
大会運営収入	6,770,000	4,139,001	2,630,999
学術小集会運営収入	11,142,503	6,358,447	4,784,056
学術・技術支援委員会収入	323,000	399,800	△ 76,800
雑収益	658,481	418,971	239,510
預金利息	1,477	710	767
雑収益	657,004	418,261	238,743
経常収益計	35,745,484	27,985,319	7,760,165
(2) 経常費用			
会報刊行費	6,284,227	5,648,469	635,758
旅費交通費	222,500	182,700	39,800
印刷製本費	4,748,353	3,805,285	943,068
編集費	1,040,000	1,386,450	△ 346,450
学会誌送料	273,374	274,034	△ 660
総会・大会費	5,774,696	3,099,782	2,674,914
学術・技術支援	264,321	252,379	11,942
学術小集会費	9,408,920	6,198,742	3,210,178
H P管理費	881,720	809,550	72,170
学会賞関係費	152,299	190,639	△ 38,340
学術交流費	201,950	356,200	△ 154,250
国際学術交流費	1,470,300	0	1,470,300
農業科学研究奨励金	1,000,000	1,500,000	△ 500,000
選挙関連費	0	220,000	△ 220,000
事業運営費	648,515	323,238	325,277
会議費	123,603	79,438	44,165
旅費交通費	524,912	243,800	281,112
管理費	4,102,235	4,309,359	△ 207,124
通信運搬費	147,128	147,718	△ 590
消耗品費	7,949	74,312	△ 66,363
事務管理費	3,190,000	3,190,000	0
減価償却費	249,700	249,700	0
外部会計監査費	154,274	148,705	5,569
雑費	353,184	498,924	△ 145,740
経常費用計	30,189,183	22,908,358	7,280,825
評価損益等調整前当期経常増減額	5,556,301	5,076,961	479,340
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	5,556,301	5,076,961	479,340
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	5,556,301	5,076,961	479,340
一般正味財産期首残高	49,069,211	43,992,250	5,076,961
一般正味財産期末残高	54,625,512	49,069,211	5,556,301
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	54,625,512	49,069,211	5,556,301

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
積立調整基金口	12,224,379	0	0	12,224,379
国際学術交流基金	14,385,042	0	0	14,385,042
寄付基金口	7,514,117	0	0	7,514,117
50周年記念事業基金	0	13,000,000	0	13,000,000
合 計	34,123,538	13,000,000	0	47,123,538

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
積立調整基金口	12,224,379	(0)	(12,224,379)	(0)
国際学術交流基金	14,385,042	(0)	(14,385,042)	(0)
寄付基金口	7,514,117	(0)	(7,514,117)	(0)
50周年記念事業基金	13,000,000	(0)	(13,000,000)	(0)
合 計	47,123,538	(0)	(47,123,538)	(0)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(単位：円)

科 目	取得価額	当期減少額	減価償却累計額	当期末残高
ソフトウェア(クレジット機能)	313,500	62,700	198,550	114,950
ソフトウェア(大会システム)	935,000	187,000	529,833	405,167
合 計	1,248,500	249,700	728,383	520,117

財産目録
令和5年12月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	金 額
(流動資産)			
	現金	手元保管	115,520
	預金	普通預金	8,763,227
		三井住友銀行白山支店	2,688,871
		PayPay銀行	2,756,051
		SMBC信託銀行	2,058,305
		三井住友銀行白山支店	1,260,000
		振替貯金	2,143,028
	未収金		123,645
	仮払金		906,717
	農薬レギュラトリサイエンス研究会		906,217
	交通カード保証金		500
流動資産合計			12,052,137
(固定資産)			
特定資産			
	積立調整基金		12,224,379
		三井住友銀行白山支店 定期	12,224,379
	国際学術交流基金		14,385,042
		三井住友銀行白山支店 定期	12,885,042
		PayPay銀行 定期	1,500,000
	寄付基金		7,514,117
		SMBC信託銀行	550,000
	50周年記念事業基金		13,000,000
		PayPay銀行	13,000,000
その他固定資産			
	ソフトウェア		520,117
固定資産合計			47,643,655
資産合計			59,695,792
(流動負債)			
	未払金		99,150
	前受金		4,545,500
	正会員		4,415,000
	学生会員		26,000
	団体会員		7,000
	その他		97,500
	預り金		15,630
	仮受金		410,000
流動負債合計			5,070,280
負債合計			5,070,280
正味財産			54,625,512

III 会計監査報告

令和5年度日本農薬学会の事業報告および決算について監査の結果、的確であることを認めます。

令和6年2月1日
監事 斎藤 勲 印
三富 正明 印

IV 議事

1. 令和5年度事業報告および決算の承認

2. 令和6年度事業計画および収支予算（案）の承認

1) 会誌の発行：日本農薬学会誌 第49巻，第1号～第2号
Journal of Pesticide Science (JPS) 誌 第49巻，第1号～第4号

2) 第49回大会の開催：R6.3.14～16，なら100年会館および近畿大学奈良キャンパスにて開催。

3) 日本農薬学会賞および論文賞の授与

4) 専門委員会などの開催

- 1) 編集委員会
- 2) 常任編集委員会
- 3) 日本農薬学会賞受賞者選考委員会
- 4) 財務委員会
- 5) 第50回大会組織委員会
- 6) 将来計画委員会
- 7) 学術・技術支援委員会
- 8) 農薬科学研究奨励金交付者審査会議（一次および二次）
- 9) 50周年記念出版ワーキンググループ

5) セミナーの開催

- 1) 残留農薬分析セミナー 2024を開催予定。（開催方式，開催時期等の詳細未定）
- 2) 農薬の安全性等に関する講師派遣。（予定）

6) 学術小集会，講演会等の開催

- 1) 農薬残留分析研究会：第47回農薬残留分析研究会を徳島グランヴィリオホテル（徳島県徳島市）において開催。（R6.11.11～12）
- 2) 農薬製剤・施用法研究会：第43回農薬製剤・施用法シンポジウムをつくば国際会議場（茨城県つくば市）において開催。（R6.10.10～11）
- 3) 農薬環境科学研究会：第41回農薬環境科学研究会を徳島県において農薬残留分析研究会と共同開催。（R6.11.11～12）
- 4) 農薬生物活性研究会：第41回農薬生物活性研究会シンポジウムを対面形式で開催。（R6.4.26）
- 5) 農薬デザイン研究会：第38回農薬デザイン研究会を東京コンファレンスセンター・品川（東京都）において開催。（R6.11.1）
- 6) 農薬レギュラトリーサイエンス研究会：第31回シンポジウムを11月頃に開催。（開催方法および開催地未定）
- 7) 農薬バイオサイエンス研究会：第25回農薬バイオサイエンス研究会を近畿大学（奈良県奈良市）において開催。（第49回大会との共催）（R6.3.15），第26回研究会を11月頃に開催予定。（詳細未定）

7) 農薬科学研究奨励金の交付

- 1) 浅見行弘 氏（北里大）：カイコ初齢幼虫を用いた微生物二次代謝物からの殺虫剤シード化合物の創製
- 2) 亀山郁 氏（筑波大）：オーキシン型除草剤ナプロアニリドの植物体内での代謝物の量的・質的解析

8) 令和6年度収支予算（案）

収支予算書

令和6年1月1日から令和6年12月31日まで（単位：円）

科 目	令和6年予算案	令和5年予算額	差異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会 費 収 入	16,069,000	15,714,000	355,000
正 会 員 会 費 収 入	8,532,000	8,080,000	452,000
学 生 会 員 会 費 収 入	130,000	68,000	62,000
海 外 会 員 会 費 収 入	47,000	50,000	△ 3,000
団 体 会 員 会 費 収 入	476,000	504,000	△ 28,000
購 読 会 員 会 費 収 入	84,000	112,000	△ 28,000
維 持 会 員 会 費 収 入	6,800,000	6,900,000	△ 100,000
会 報 刊 行 収 入	48,500	860,000	△ 811,500
頒 布 収 入	18,500	30,000	△ 11,500
広 告 料 収 入	30,000	30,000	0
著 者 負 担 金 収 入	0	800,000	△ 800,000
事 業 収 入	21,298,000	18,960,000	2,338,000
大 会 運 営 収 入	7,798,000	5,540,000	2,258,000
学 術 小 集 会 運 営 収 入	13,000,000	12,920,000	80,000
学 術 ・ 技 術 支 援 委 員 会 収 入	500,000	500,000	0
雑 収 入	111,000	111,000	0
預 金 利 息 収 入	1,000	1,000	0
雑 収 入	110,000	110,000	0
事業活動収入計	37,526,500	35,645,000	1,881,500
2. 事業活動支出			0
会 報 刊 行 費 支 出	6,220,000	6,170,000	50,000
旅 費 交 通 費 支 出	250,000	250,000	0
通 信 運 搬 費 支 出	10,000	10,000	0
消 耗 品 費 支 出	10,000	10,000	0
印 刷 製 本 費 支 出	4,400,000	3,900,000	500,000
編 集 費 支 出	1,250,000	1,500,000	△ 250,000
学 会 誌 送 料 支 出	300,000	500,000	△ 200,000
総 会 ・ 大 会 費 支 出	7,036,000	5,540,000	1,496,000
学 術 ・ 技 術 支 援	500,000	1,500,000	△ 1,000,000
学 術 小 集 会 費 支 出	13,000,000	13,138,000	△ 138,000
H P 管 理 費 支 出	1,150,000	900,000	250,000
学 会 賞 関 係 費 支 出	205,000	205,000	0
学 術 交 流 費 支 出	256,200	256,200	0
国 際 学 術 交 流 費 支 出	1,000,000	1,000,000	0
農 業 科 学 研 究 奨 励 金 支 出	1,000,000	1,000,000	0
男 女 共 同 参 画 支 援 費 支 出	150,000	150,000	0
選 挙 管 理 費 支 出	220,000	0	220,000
事 業 運 営 費 支 出	1,550,000	1,500,000	50,000
会 議 費 支 出	700,000	700,000	0
旅 費 交 通 費 支 出	850,000	800,000	50,000
管 理 費 支 出	5,200,000	4,200,000	1,000,000
通 信 運 搬 費 支 出	250,000	250,000	0
消 耗 品 費 支 出	150,000	150,000	0
事 務 管 理 費 支 出	3,190,000	3,190,000	0
印 刷 費 支 出	50,000	50,000	0
外 部 監 査 管 理 費	160,000	160,000	0
雑 支 出	1,400,000	400,000	1,000,000
事業活動支出計	37,487,200	35,559,200	1,928,000
事業活動収支差額	39,300	85,800	△ 46,500
II 投資活動収支の部			0
1. 投資活動収入			0
特 定 資 産 取 崩 収 入	0	0	0
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			0
特 定 資 産 取 得 支 出	0	13,000,000	△ 13,000,000
50周年事業基金口取得支出	0	13,000,000	△ 13,000,000
投資活動支出計	0	13,000,000	△ 13,000,000
投資活動収支差額	0	△ 13,000,000	13,000,000
当期収支差額	39,300	△ 12,914,200	12,953,500
前期繰越収支差額	6,981,857	14,425,856	△ 7,443,999
次期繰越収支差額	7,021,157	1,511,656	5,509,501

3. 終身会員の承認

4. 日本農薬学会第50回大会（2025年）について

第50回大会を2025年3月に東京大学および北里大学において開催することが評議員会において承認された。50周年記念事業の実施について以下の事業を計画している。既に事業基金の積み立てを行っているが、一定規模の寄付の依頼も計画している。

- 1) 50周年記念大会・祝賀会
- 2) 出版事業
- 3) 若手研究者の海外派遣事業
- 4) 学会ホームページの刷新
- 5) その他、アウトリーチ活動の強化等

5. 日本農薬学会（任意団体）の一般社団法人化について

現在、日本農薬学会は任意団体である。農学関連の学会の

多くが法人化をすすめる現状を踏まえ、社会的信用を高めるために本学会を一般社団法人とすることが必要と考え、これを提案する。2025年度に現在の日本農薬学会を解散し、新たに設立する一般社団法人日本農薬学会へ現会員・事業・財産の移行を行うことを提案する。以下に移行に関する大まかなスケジュールを示す。

2024.3（第49回大会，総会）：法人化の提案，可否を問う

2024.10：任意団体日本農薬学会会長他選挙

2024.12：新法人の登記，設立

2025.3（第50回大会，総会）：新法人への移行・活動開始，任意団体日本農薬学会の解散決議

2025.10：任意団体日本農薬学会の精算

6. その他

役 員

(2023.4.1 ~ 2025.3.31)

会 長	松田 一彦 (近畿大)	飯島 和昭 (残農研)	元場 一彦 (日本農薬)
副 会 長	與語 靖洋 (植調協会)	佐藤 清 (元 残農研)	田中 啓司 (近畿大)
顧 問	内田又左衛門 (元 緑安協)	三富 正明 (法政大)	浅見 忠男 (東京大)
監 事	斎藤 勲 (東海コープ)	旭 美穂 (日産化学)	石原 亨 (鳥取大)
評 議 員	青山 博昭 (残農研)	池田 佑美 (玉川大)	乾 秀之 (神戸大)
	有江 力 (東京農工大)	伊藤 晋作 (東京農大)	上山 功夫 (化学分析コンサル)
	石原 悟 (農水省)	岩船 敬 (農水消安セ)	大竹 敏也 (愛知県農総試)
	伊原 誠 (近畿大)	太田 広人 (崇城大)	岡澤 敦司 (大阪公大)
	王 敬銘 (秋田県大)	大山 和俊 (残農研)	片木 敏行 (住友化学)
	大野 竜太 (北興化学)	甲斐 建次 (大阪公大)	加藤 康仁 (日本化薬)
	荻山 和裕 (日植防)	勝田 裕之 (三井化学CLS)	木戸 庸裕 (北興化学)
	片山 新太 (名古屋大)	河合 清 (クミアイ化学)	小森 岳 (住友化学)
	門岡 織江 (住化テクノ)	清田 洋正 (岡山大)	佐藤 一行 (三井化学CLS)
	木村 幸夫 (日本エコテック)	坂本 典保 (広栄化学)	柴田 哲男 (名古屋工大)
	坂 真智子 (エスコ)	塩月 孝博 (島根大)	清水 力 (クミアイ化学)
	佐野 宏己 (三井化学CLS)	島本 文子 (高知県農技セ)	須戸 幹 (滋賀県大)
	島村 裕二 (農水省)	須恵 雅之 (東農大)	関野 景介 (SDS バイオテック)
	謝 肖男 (宇都宮大)	清家 伸康 (農研機構)	滝川 浩郷 (東京大)
	巢山 弘介 (島根大)	高橋 宣好 (OAT アグリオ)	塚本 正満 (石原産業)
	高木 和広 (農研機構)	田村 廣人 (名城大)	中川 好秋 (京都大)
	田中 千尋 (京都大)	富澤 元博 (東京農大)	中西 充 (香川県農試)
	富ヶ原祥隆 (日本メジフィジックス)	中谷 昌央 (クミアイ化学)	夏目 雅裕 (東京農工大)
	仲下 英雄 (福井県大)	永山 敏廣 (明治薬科大)	西松 哲義 (日本農薬)
	中村 英光 (バイネックス)	西川 学 (奈良県農研セ)	野下 浩二 (秋田県大)
	成田伊都美 (埼玉県農研セ)	丹羽 隆介 (筑波大)	番場 伸一 (三井化学CLS)
	西脇 寿 (愛媛大)	濱口 洋 (元 日本農薬)	平田 晃一 (日本曹達)
	橋本 誠 (北海道大)	平井 憲次 (相模中研)	藤村 佳樹 (バイエル)
	日野 智和 (日本農薬)	藤村 真 (東洋大)	丸 諭 (化学分析コンサル)
	藤田 眞弘 (全農)	松本 宏 (筑波大学)	水口智江可 (名古屋大)
	古谷 敬 (日本農薬)	三谷 晃 (日本曹達)	宮下 正弘 (京都大)
	三田 猛志 (日産化学)	宮崎 翔 (東京農工大)	村野 宏達 (名城大)
	宮川 恒 (京都大)	村井 正俊 (京都大)	森山 裕充 (東京農工大)
	三芳 秀人 (京都大)	森本 正則 (近畿大)	藪崎 隆 (全農)
	望月 証 (兵庫県農水総セ)	矢吹 芳教 (大阪環農水総研)	山本 幸洋 (千葉県農研セ)
	矢野 祐幸 (クミアイ化学)	山本 敦司 (日本曹達)	吉實 隆志 (日本農薬)
	山内 聡 (愛媛大)	横山 昌雄 (植調協会)	渡邊 裕純 (東京農工大)
	横田 篤宜 (農薬工業会)	米田 哲夫 (石原産業)	
	吉田 隆延 (農研機構)		

常任評議員

総 務 担 当:	村井 正俊	仲下 英雄	水口智江可	伊藤 晋作	滝川 浩郷
財 務 担 当:	佐野 宏己				
編 集 担 当:	森山 裕充				
渉外・企画担当:	西脇 寿	橋本 誠	矢吹 芳教	山本 敦司	

名 誉 会 員

安部 浩	安藤 哲	梅津 憲治	大川 秀郎	佐々木 満	佐藤 清
正野 俊夫	高橋 正三	谷口 栄二	辻 孝三	中津川 勉	中村 幸二
西村勁一郎	星野 敏明	前田 泰三	丸茂 晋吾	宮本 徹	本山 直樹
山口 勇	山本 出	山本 廣基	米山 勝美	米山 弘一	

終 身 会 員

浅利 健二	安部八洲男	有田 浩之	五十嵐 丕	石井 康雄	石井 英夫
岩本 毅	白井 健二	上山 功夫	内田又左衛門	越中 俊夫	遠藤 武雄
大津 悠一	大原 詔雄	岡田 至	利部 伸三	加藤 肇	加藤 保博
金子 俊彦	川端 成彬	木村 俊夫	切畑 光統	下松 明雄	倉橋 良雄
熊沢 智	桑野 栄一	桑原 保正	児玉 治	小林勝一郎	小林 裕子
近内 誠登	斎藤 勲	佐藤 元昭	実光 穰	穴戸 孝	城島 輝臣
杉山 浩	鈴木 敏雄	高山千代蔵	武居 三郎	竹内 安智	竹柴 英雄
竹田 勇	谷中 国昭	田中 啓司	千野 義彦	辻 英明	土屋 秀士
遠山 輝彦	富田 文夫	成瀬 功	濱口 洋	馬場 洋子	林 眞守
堀 伸二郎	堀 正大	本田 博	牧野 孝宏	益子 道生	俣野 修身
松山 宣明	丸 諭	水谷 純也	山脇 孝博	吉川 博道	米澤 泰治

第50回 日本農薬学会編集委員会 議事録

日時：2024年3月13日 15:15～16:15

場所：ホテル日航奈良 飛天の間

出席者：23名（松田会長を含む）

I. 報告事項：

- Journal of Pesticide Science (JPS) Vol. 48, No. 1-No. 4
のコンテンツ
Review: 1編, Regular article: 21編, Brief Report: 6編,
Technical Report: 1編
- JPSへの投稿, アクセス状況及びIFの推移
- 和文誌年間アクセス数, 国別アクセス数
- JPS年間アクセス数, 国別アクセス数
- 和文誌49巻2号の掲載予定内容
- 和文誌48巻1号と2号の掲載内容
- 和文誌における50周年記念寄稿について
- 英文校閲費について（2020年～2023年）
- JPS論文公開四半期手数料金
- 副編集委員長の設置（第217回常任編集委員会で決定）

II. 審議事項

- JPS過料超過ページ数の変更案について審議の結果, 変更せず現状の条件を維持することにした. 刷り上がりで8ページを超える場合, 超過料金は基本的には徴収しない方針とした（尚, 超過分量が多すぎる場合, 常編メンバーで審議後に徴収実施する）. またPubMed掲載手数料について国際文献社に再度確認することとした.

III. 常任編集委員会開催報告

- 第216回（2023年3月25日（土）対面開催於日本植物防疫協会）
①和文誌の投稿細則改訂について（安藤和文誌担当委員より説明）.
和文誌の投稿細則（細則18）を変更し英文誌同様に引用文献には論文タイトルを記載する.
②問題案件事例
受理通告から著者側（海外）からの最終原稿提出に約2か月以上を要した事例があった. 著者には受理後は速やかな手続きを促すことに留意する.
- 臨時委員会（2023年6月5日（月）オンライン開催）
①令和5年度編集委員会, 常任編集委員会メンバーの刷新について.
松田会長より 令和5年度編集委員, 常任編集委員刷新の経緯について説明があり, 森山委員長より各常任編集委員が紹介された.
- 第217回常任編集委員会（2023年8月5日（土）対面開催於日本植物防疫協会）
①令和6年度 論文賞受賞候補論文の選出（投票）
②JPSの英文校閲の義務化について.
③和文誌1号への投稿依頼（安藤和雑誌編集委員長）.

IV. その他

- 2024年度常任編集委員会開催予定日
第一回4/27（ハイブリッド, 植防会館）, 第二回7/27（対面, 論文賞候補者選出）, 第三回11/16（ハイブリッド, 植防会館）, 第四回2025年3月（編集委員会と合同

開催)

2. 編集幹事の1名増員

理由：和文誌49巻2号（8月20日発刊）が多数の記事掲載となることへの対策。

新編集幹事：乾 秀之氏（神戸大）が令和6年4月1日付けで就任。

3. JPS部門長として1名増員（生物活性部門長を新設）

理由：特定の部門長に偏るケースが生じる事態を避けるため。

新部門長：西脇 寿氏（愛媛大）が令和6年4月1日付けで就任。

4. 編集委員として2名増員

岩上哲史氏（農工大）、近藤 圭氏（残留農研）が令和6年4月1日付けで就任。

日本農薬学会第49回大会（奈良）報告

日本農薬学会第49回大会は、2024（令和6）年3月14日（木）から3月16日（土）までの3日間にわたり、奈良県奈良市の、なら100年会館と近畿大学奈良キャンパス（農学部）にて開催された。本大会への参加者数は、正会員190名、学生会員34名、非会員118名（合計342名）、加えて名誉・終身・賛助会員、シンポジスト、企業展示・ランチョンセミナーその他のスタッフなど445名であった。ランチョンセミナーは7団体、企業展示は8団体であった。

初日の14日は、なら100年会館大ホールを会場とし、午前中には、総会に続いて学会賞授賞式（奨励賞1題、業績賞[研究]1題、業績賞[技術]1題、論文賞1題）を行い、午後には受賞講演（奨励賞1題と業績賞2題）と特別講演（2題）が開催された。昼食時には、名誉会員・終身会員・招待者などを交えた昼食会を行った。

特別講演は、「いにしえから未来へ」をテーマとして、東影悠先生（奈良県立橿原考古学研究所）から「大和を掘る—橿原考古学研究所の調査・研究—」と題したご講演から、いにしえに思いを馳せ、澤田好史先生（近畿大学農学部水産学科・水産研究所）から「持続可能な養殖を目指して—クロマグロ・アイゴ完全養殖—」と題したご講演から、これからの水産養殖の未来、食料生産の問題点などについて話題提供を頂いた。いずれの講演も農薬学会会員にとってはなじみが薄いテーマながら、共通する研究への熱意を感じ取ってもらえたように思われた。

その後、ホテル日航奈良にて開催された懇親会では、特別講演で紹介された近畿大学の養殖魚（マグロ、ブリヒラ、クエタマなど）と奈良の地酒コーナーを設け、参加者に大いに楽しんで頂いた。コロナ禍以降での、久しぶりの制約無しの



令和6年度学会賞受賞者

懇親会とあって情報交換などに花が咲いたようである。今回の懇親会では、当初の参加予想人数である200名を超えた264名に参加を頂いた。

2日目（15日）及び3日目（16日）は、一般講演を4会場（A～D会場）にて実施、昼食時にはランチョンセミナーを、それぞれ4団体、3団体で実施頂いた。2日目の一般講演後には、農薬バイオサイエンス研究会との共催シンポジウムとして「生物を知り制御する」と題して5題の話題提供があり、300名を超える聴講者を集めた。3日目の一般講演後には、大会組織委員会提案シンポジウムとして「化学合成農薬とは異なる作物保護技術」と題して5題の話題提供があり、最終日の午後にもかかわらず多くの聴講者を集めた。

一般講演は70題の口頭発表が、4会場で行われ活発な議論がなされた。その中の農薬学会の学生会員を対象とした学生優秀発表賞では、最優秀賞として内田裕一郎氏（神戸大院・農）に、優秀賞として小鮎咲和氏（阪公大院・農）と平井献士氏（東洋大院・生命）に授与した。一般講演会場近くに設営した企業展示では、コーヒーサービスも行われ、海外からの企業も含めた8団体が展示を行い盛況であった。

上記のように、日本農薬学会第49回大会（奈良大会）を盛会のうちに終えることが出来た。これは、参加者各位、魅力的なシンポジストに加え、協賛企業からの経済的な支援によってなされたものである。また、組織委員会各位、当日の学生アルバイトや各種業務委託をお願いしたダイナコム、奈良ビジターズビューロー、近畿日本ツーリストにも御礼申し上げます。さらに懇親会では、ホテル日航奈良、アーマリン近大、奈良県酒造組合の方々にご協力頂きました。ここに御礼申し上げます。最後に、皆様の益々のご活躍、ご発展を祈念いたします。

日本農薬学会49回大会組織委員会委員長
森本 正則（近畿大学農学部）

日本農薬学会第49回大会 収支報告書

単位：円

科 目	決算額	備 考
【収入の部】		
大会参加費	4,958,000	有料参加者数
		正会員 201
		学生会員 34
		非会員 108
		合計 343
講演要旨頒布料		
ランチョンセミナー・広告・展示	3,546,000	ランチョンセミナー7件，広告18件，展示8件
助成金	194,000	
利子	0	
収入合計	8,698,000	
【支出の部】		
会場費	632,400	なら100年会館
懇親会費	2,547,504	
会議費	113,886	
大会システム費	550,000	大会システム
業務委託費	66,000	ホテル幹旋
当日運営	645,263	弁当・コーヒーなど
消耗品費・雑費	15,844	
旅費・交通費	205,190	シンポジスト・委員旅費
通信運搬費	292,115	郵便，振込手数料，クレジットカード決済料
謝金	189,329	講師謝礼・源泉徴収
アルバイト費	137,000	会場係など
支出合計	5,394,531	
収支差額	3,303,469	

会 員 動 静

(2023年12月1日～2024年2月29日)

入会

正会員

本間 颯太 大島 雄 畑中 良太 三澤 靖
芹澤 将和 入江 真理 大矢 武志 岩佐 基悦
丹生谷颯人 山下 光明 松井 麻記 島岡 仁美
桐山 寛生 西ヶ谷有輝 鈴木 万智 松島 慶太
末吉 歩夢 古川 雅也

学生会員

長根 悠介 韞谷 祐貴 久米 琴音 水上 景埜
天満屋醒希 熊谷 木香 中村 優斗 小鮎 咲和
渡辺 大賀 岩本 芙紀 内田裕一郎 山本 彩加
高原 洸介 河合さやか 野崎 哲平 武立 奈々
樋口 颯亮

退会

正会員

新井 清司 星野英一郎 池内 利祐 金 哲史
丸山 俊城 三浦 友三 森田 雅之 永堀 博久
岡田 清嗣 高橋 義行 立上 紀夫 上野 英二
脇田 健夫 酒井 國嘉 柑本 俊樹 河村 伸一
嶋田 幸久 大坂 郁恵 和田 哲夫 本田 卓
廣木 英勝 明瀬 智久 中屋 潔彦 中野 一朗
鳴海 雅人 立元 智子 福永 悟史 彌富丈一郎
手銭良太郎 宮田知代子 武藤 悠 高塩 恵子
VAVRICKA Christopher J. 志村 潤 飯ヶ谷正幸
太田 大策 尾松 正人 大竹 敏也 橋本 勝
渡辺 和典

学生会員

奥村 文乃 小笠原千夏 岸端 咲良 岩田 幸介

(受付順)

学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催，共催，協賛，後援する会議など

2024年

9月

28日(土) 残留農薬分析入門セミナー 2024

会場：一般社団法人日本植物防疫協会 会議室〔〒114-0015 東京都北区中里2-28-10〕

10月

10日(木)～11日(金) 第43回農薬製剤・施用法研究会シンポジウム

主催：日本農薬学会 農薬製剤・施用法研究会
会場：つくば国際会議場〔〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-3〕

11月

1日(金) 第38回農薬デザイン研究会

場所：東京コンファレンスセンター品川〔〒108-0075 東京都港区港南1-9-36 アレア品川4F〕

11日(月)～12日(火) 第47回農薬残留分析研究会・第41回農薬環境科学研究会【合同開催】

場所：徳島グランヴィリオホテル〔〒770-0941 徳島県徳島市万代町3-5-1〕

(日付未定) 第26回農薬バイオサイエンス研究会

主催：日本農薬学会，農薬バイオサイエンス研究会
会場：崇城大学〔〒860-0082 熊本県熊本市西区池田4-22-1〕
※詳細が決まり次第，ホームページ等でお知らせします。

「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版2018」のご案内

日本農薬学会では，精度の高い残留農薬分析を実施する上で特に配慮すべき事項を「Q & A」形式に取りまとめた「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ」を出版しています。2003年に初版を発行以来，好評を博して改訂を重ね，現在最新版が改訂4版となっております。改訂4版では，前3版出版以降の農薬登録制度の動向を反映させ，最新の科学的知見を盛り込むよう全文の見直しを行ったうえで，初学者の方にも，より読みやすくなるよう心がけて内容を再整理しました。また，携行性を高めるために軽量化を図りました。前版と同様に残留農薬分析の基本やノウハウを得るための参考書として，さらに，食の安全に関心をお持ちの幅広い方々に対しても，農薬の規制についての理解の一助となるようお役立て頂けると幸いです。定価は3,000円です(送料別)。

購入申込み方法：

メールまたはFAXにて，以下の日本農薬学会事務局に氏名，所属，メールアドレス，電話番号，送付先住所，購入冊数(FAX申込みの場合はFAX番号)などをご連絡下さい。また，メールなどの件名には「問答あれこれ購入」と記入して下さい。折り返し請求書(送料を含む)を同封し発送しますので，振込みをお願いします。詳細は，学会ホームページもご参照ください。

日本農薬学会事務局：

〒114-0015 東京都北区中里2丁目28番10号 日本植物防疫協会内

FAX: 03-5980-0282

MAIL: nouyaku@pssj2.jp

学会HP: http://pssj2.jp/overview/book_zanryu.html

※平成30年の農薬取締法改正に伴い更新が必要となった記事を新旧対照表として取りまとめました。

学会ホームページ上 (http://pssj2.jp/overview/book_zanryu.html) で公開していますので，ご参照ください。



「農薬について知ろう」ウェブサイトのご案内

日本農薬学会は学会ウェブサイト内に「農薬について知ろう」というサイトを開設しています。このサイトでは、農薬に関する理解を助けるため行政や公的機関などの情報を中心に紹介しています。

食品の安全に対する関心が高い中、家庭や学校など日常生活の中で農薬が話題となる機会も多いですが、関連する情報は散在しており、知りたい情報にたどり着くのに苦労することも少なくありません。そこで農薬のことを十分に理解するための多方面の情報を一元的かつ簡単に検索でき、食の安全や健康影響、環境影響などを考える際に利用できるポータルサイトとして運営しています。

このサイトでは、情報を必要としている方々に応じて小学生、一般の方、先生、農業・流通業関係者の4つのグループに分けて情報が整理されています。また、小学生向けには漢字にルビを振るとともに、分かりやすい情報サイトを選び紹介しています。さらに、情報は「規制」、「安全性」、「薬剤」、「環境・残留」、「農業」のカテゴリー別に分類されています。「規制」は農薬の登録や管理に係る法律、試験方法、農薬残留基準、食品の輸出入など、「安全性」は毒性、安全性、健康影響、リスク評価やリスク管理の考え方、「薬剤」は農薬の種類や特徴、農薬の使用方法、「環境・残留」は農薬の残留、環境中の分解、環境生物への影響など、「農業」は効果、薬害、防除、農法などについて整理されています。また、キーワードからカテゴリーごと、あるいは、50音別・アルファベット順別に縦横に検索できる機能も備えています。農薬に直接関わらない子供たちや一般の方々に向けてだけでなく、農薬や農業の専門家の方々にも十分役立つような情報を収録する工夫がされています。

今後も新しい規制や技術、知見など収録情報の追加や更新を継続していきます。皆様にご活用いただけますようお願いいたします。

日本農薬学会のトップページや下記のアドレスからご覧ください。

<http://pssj2.jp/rikai/index.shtml>



講師派遣のご案内

日本農薬学会では、一般市民や農業、教育関係の方々に農薬に関する知識や理解を深めていただくことを目的として、専門家を講師として派遣しています。派遣講師が行う講義の内容は、食料生産、作物保護、食品安全、環境影響、薬剤抵抗性、農薬製剤・施用法、農薬をめぐる諸問題など、ご要望にできる限り沿うようにしたいと考えておりますので、遠慮なくご相談ください。本活動にご興味ございましたら、学会ホームページ（http://pssj2.jp/overview/semina/haken_16.html）をご参照のうえ、日本農薬学会事務局にご連絡ください。



【予告】農薬科学研究奨励金のご案内

日本農薬学会では、農薬科学研究の支援を目的として、特に競争的資金の獲得が難しい研究課題や研究者の方々にも利用して頂けるよう、農薬科学研究奨励金の交付を行っています。今年度は令和7年度交付分の募集を9～11月に予定していますので、応募をお考えの皆様には是非前もってご準備下さい。詳細な応募要件などは、後日正式に決定次第、ご案内いたします。

過去の採択課題：http://pssj2.jp/inside/past_grant.html

令和7・8年度日本農薬学会役員選挙について

令和6年10月に令和7・8年度日本農薬学会役員選挙が実施される予定です。詳細につきましては、選挙管理委員会発足後に、メールまたは郵便にてご連絡致します。また、次号ニュースレター（8月20日発行予定）でもお知らせ致します。なお、本会規定により、本年5月31日の時点で今年度の会費を納入していない方には選挙権・被選挙権が認められませんので、会費を払われていない会員の皆様には会費納入を5月末までに済ませて下さいますようお願い致します。

発行所：日本農薬学会
〒114-0015 東京都北区中里2-28-10
一般社団法人日本植物防疫協会内
FAX: 03(5980)0282
E-mail: nouyaku@pssj2.jp